

II - 4. 情報提供システムの整備状況

情報提供プロジェクトチーム・リーダー：小栗有子

ESD-J の情報提供プログラムは、情報提供 PT が中心に担ってきた。6月 29 日に実施した第二回運営委員会で情報提供 PT が設置され発足、ホームページ（以下 HP）の立ち上げを最優先課題として、PT メンバーの拡大を図りながら活動を実施してきた。

■ウェブサイトの構築

第二回情報提供 PT の会合（7月 5 日）までに、ESD-J に関する情報の整理とそれに応じたコミュニケーション手段の検討を行った。その上でそれらに対応するシステム（案）＜表1＞を作成し、予算とあわせて第三回運営委員会（7月 19 日）に諮った。

<表1>

－7月 19 日運営委員会提出書類より－

ツール	対象	内容	時期
メーリングリスト（レンタルサーバ）			
1	ESD-J ML	会員希望者	8月末 運営目標
2	運営委員会	運営委員	
3	5つのプロジェクト	PT メンバー	
4	事務局メール (事務局ファックス)	会員全員	
会員管理 及び セキュリティシステム（レンタルサーバ）			
1	会員管理システム	事務局	8月末 運営目標
2	セキュリティシステム	HP & ML	
ホームページ（レンタルサーバ）			
1	一般公開 (オープン)	非会員（一般） &会員	9-10月 公開目標
2	会員専用 (クローズド)	会員のみ	
メルマガ（まぐまぐ使用？）			
1	メールマガジン	非会員（一般） &会員の希望者	9-10月頃 発信開始

情報提供事業に関するシステムおよびウェブサイト構築の業者選定および契約作業は団体運営 PT が行った。団体運営 PT は、情報提供 PT が作成した要求仕様書に基づき 12 社から見積もりをとり、価格および業務遂行能力からみて地域活動推進協会（LACA）を選定し、運営委員会の承認を得た。その一方で、レンタルサーバ並びにドメイン（www.esd-j.org）を取得する。

II - 4. 情報提供システムの整備状況

9月末のシステム納期に向けて、情報提供PTの次なる課題は、HP用の運営に移っていました。主な論点は、コンテンツの企画・供給方法と承認の方法にあった。協議の結果、当面ウェブサイトの情報を(A)「ESD-J関連情報」と(B)「ESD基本情報」に大きく区分し、それぞれをさらに(A)運営委員会情報、プロジェクトチーム動向、イベント案内、(B)政策動向、国内動向、海外動向、ESDに関連情報、用語集、Q&Aに細分化した。また、コンテンツの供給の仕組みとして、「ESD記者」を配置するアイデアが提案され、ESD-J主催の学習会などで試行的に実施した。9月末頃に(A)と(B)それぞれの記事依頼を行い、10月中旬に晴れてESD-JのHPをリニューアルすることができた。

■ ESD-Jが提供すべき情報

10月の段階で情報提供PTのメンバーは7人に増加していたが、HPを充実させていくためには、より多くの人の知恵が必要ということで、中旬頃にヒアリング会議を実施した。ここで明らかになったことは、

- (1) ESD-Jとしての情報に対する基本方針がない、
- (2) (1)に基づく情報提供PTの基本方針がない、
- (3) (1)・(2)に基づくHP情報に対する基本方針がない、ということであった。

その後、情報提供PTでは、(1)・(2)・(3)について議論を行い、「情報提供の対象」「内容」「方法」について一定の合意を得るまでになった。「対象」については、既にESDに認識があり、さらに深めようとする人、および、新規にESDと接する人の双方を対象とする。「内容」については、渾然一体をよしとして、まとめることよりも多様性を重んじる。「方法」については、一方向の情報ではなく、双方向に情報が行き交うことを基本とする。

3月上旬に実施した全国ミーティングの「情報提供PT分科会」では、多様な構成メンバーとさらに議論を深めることが適い、「技術用語」から皮膚感覚のある「コミュニケーション用語」>開発の必要性や、「持続可能ではない」「開発」の現実>を伝えることの重要性が新たに明らかとなった。さらには、「言葉ではない表現方法」や「楽しさ」などこれまで意識してこなかった情報提供のあり方を発見することになった。全国ミーティングで出会ったメンバーは、情報提供を進めていく上の新たな仲間に加わることになった。

■ 今後の課題と展望

2003年度の活動を終えるにあたり、最初に設定した事業のうち、ウェップサイトと連動したシステムの一部（掲示板・メーリングリスト・ウェップからの入会システム）が完了していない。その原因としては、システム設計を計画した段階で、その実現にかかる作業負担および予算に関する予測が充分できなかつた点にある。システムの完成については、次年度以降の計画の中で再度、検討していきたい。

一方、今後の課題としては、HPの充実、および紙媒体による情報提供の充実がある。HPの充実に関しては、完成間近の用語集を完了させることが先決である。また現在、①実践事例の充実、②リンクの充実、③農業をモデルケースとした既存団体へのアプローチが、具体的に動き始めている。さらなる課題として、英語版HPや海外情報の発信が残されており、国際プロジェクトチームと今後連携を深めることが不可欠である。手探りだった情報提供プログラムも、一年を通して課題が明確になってきたことが、大きな成果だったといえよう。